

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名 「都市の活力を生み出す産業と人材が求める都市環境に関する研究」	
2. 有識者意見の概要及び対応 大阪市立大学大学院創造都市研究科 教授 小長谷 一之氏	
意見の概要	意見に対する対応
<p>1. 全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これだけの分量の調査をよくやったと思う。その点については敬意を表したい。 ・調査で得られた情報量は多く、テーマも相当多岐に亘る。報告書としては、データやその分析もさることながら、国土交通省として、街はどうあるべきと考えるかという方向性、未来志向的に何をやっていくかというアイデア等を、4つくらいにまとめたプラスアルファの章を書くが良い。 ・ナレッジワーカー・クリエイターのライフスタイル・ワークスタイルの特徴を捉え、どのような環境でアイデアを出しやすいかから導き出すこと。 <p>2. 職と住と遊の関係という方向性を提案してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方向性の一つは、職と住と遊の関係。 ・ナレッジワーカー・クリエイターは、遊びながら仕事をするようなところがあり、職・住・遊の場（職場でも住居でもない「第三空間」。意見交換、アイデア出し等が行われる第二の仕事場、会議室的役割を果たす。）が近接した環境を好む。山手線内くらいの範囲でこれらが連関していると、その間を動きながら、24時間眠らず活発に活動する。この結果、都心～郊外の長距離トリップは減るが、都心内の短距離トリップは増加し、複雑化する。このようなナレッジワーカー等のライフスタイル・ワークスタイルに適応した“次世代都市環境”を提案してはどうか。 <p>3. 「創造的街区づくり」という方向性を提案してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造的街区には、先端的雰囲気だけでなく、緑が多い、人間的であることが重要。 ・日本は、欧米に比較して、高級な質の良いオフィス需要が少ないと言われてきた。今後も、今後も都心部の大型開発は続くと、その結果、優秀な人・企業はそこに移るので、末端の中小ビルが空く。街づくりという視点からは、大規模開発と中小ビルの空き室対策という二面作戦が必要。空き室が増える中層ビルを、隠れ家的魅力を持ったオフィスとして、SOHOスタイル等の新産業を入れると良い。 ・渋谷、南青山も緑が多いことがクリエイティブな人材の集積につながっている。今後も緑をどう増やすかが鍵となる。 	<p>第 部を再構成し、第 2 章を「都市に活力を生み出す人材を惹きつける都市環境の充実のための方向性」とし、その中で、「第 3 節 ナレッジワーカー・クリエイターのワークスタイルとライフスタイルを生かすための都市づくり」として記述する。</p> <p>第 部第 2 章第 3 節「ナレッジワーカー・クリエイターのワークスタイルとライフスタイルを生かすための都市づくり」で記述する。</p> <p>第 部第 2 章第 3 節「ナレッジワーカー・クリエイターのワークスタイルとライフスタイルを生かすための都市づくり」で記述する。</p>

有識者意見の概要及び意見に対する対応

- ・街づくりには、建築、看板等の規制が重要。全部一度に規制をかけるのは難しいが、特区等で規制を強めてはどうか。そこがうまくいけば他も続くだろう。
- ・高層ビルに比べ、中層ビルは隠れ家的である。中層ビル街の整備を進め、中身はインキュベーションエリアとしてはどうか。スカイラインの揃った中層ビルの街並みを、欧米出身者は美しいと感じる。観光面での効果もある。
- ・同済大学周辺のデザイン事務所の集積は興味深い。日本でも大学周辺を「大学街特区」として整備したらよい(キャンパス内は大学に任せる)。学生や出身者がオフィス等を構え、ナレッジワーカー街区となってゆくような「大学都市整備計画」を方向性として出せると良い。ポテンシャルのあるエリアは結構ある。

4 安心して考え事ができるようなパブリックスペースづくりを提案してはどうか

- ・ナレッジワーカー・クリエイターには、考えをまとめる、アイデアを出すなどのために、安心してぶらぶらできる場所、一種の「遊びの空間」を必要とする。
- ・海外出身者が挙げているのは、図書館、公民館、公園、会議室、喫茶店、スポーツジム等。欧米に比べると、大人が、自分を見直したり、調べ物、考え事をする場所が少ないと言え、それを街づくりの中で整備していくことが大切である。
- ・街中の仕掛けとして、安全・安心な場所(人間は考え事をするとき無防備) 隠れ家的・人間的な場所、緑がある場所等をつくる。
- ・今の日本の公園は、店舗等から道路等で切り離されているのが良くない。建物から直接つながった中庭の公園を整備してはどうか。ナレッジワーカー等はそこで打合せをしたりすることもできる。

5 . その他

- ・外国人特有の課題への対応はしっかり行うことが必要。
- ・海外出身者から公共交通の使い勝手が良くないという指摘があるが、地下鉄路線等は日本人にとっても複雑。目的地への最短ルートを示す「公共交通ナビゲーション(駅や主要観光スポットに設置、旅行者向けに携帯電話やPDAを格安でレンタル等)」を導入してはどうか。観光面でも日本の印象を良くするのに役立つ。

第 部第2章第3節「ナレッジワーカー・クリエイターのワークスタイルとライフスタイルを生かすための都市づくり」で記述する。

第 部の再構成の結果、第2章第2節3「交流の前提となる都市のオープンさ」でソフト面を、第3章「日常的な活動や生活を支える都市環境の充実のための具体的要素」で交通機関や住宅の関係を記述することとし、外国人特有の課題への対応についても整理し直した。

具体的な提案については、第 部第2章第3節「ナレッジワーカー・クリエイターのワークスタイルとライフスタイルを生かすための都市づくり」で記述する。